

PAT-NO: JP02002058651A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002058651 A

TITLE: DIFFERENTIATION METHOD FOR PERIOD TO BE CAREFUL TO SKIN TROUBLE OUTBREAK AND SHEET FOR DIFFERENTIATION

PUBN-DATE: February 26, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MORI, SACHIYOSHI	N/A
YOSHIHAMA, KEIICHIRO	N/A
NISHIHARA, TAEKO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
POLA CHEM IND INC	N/A

APPL-NO: JP2001171683

APPL-DATE: June 6, 2001

PRIORITY-DATA: 2000169848 (June 7, 2000)

INT-CL (IPC): A61B005/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a means to appropriately differentiate cases when the outbreak of a skin trouble occurs.

SOLUTION: The period to be careful to the outbreak of a skin trouble is differentiated making whether characteristics in an area, where a user used to spend the greater part of little child period, as an index. For the differentiation, a sheet with light cold colored background, on which an image diagram of weather in the area where the user passed the great part of the little child period and a comment correlated to the image diagram are described.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-58651

(P2002-58651A)

(43)公開日 平成14年2月26日 (2002.2.26)

(51)Int.Cl'

識別記号

F I

マークコード(参考)

A 61 B 5/00

A 61 B 5/00

M

審査請求 有 請求項の数11 OL (全21頁)

(21)出願番号 特願2001-171683(P2001-171683)

(22)出願日 平成13年6月6日 (2001.6.6)

(31)優先権主張番号 特願2000-169848(P2000-169848)

(32)優先日 平成12年6月7日 (2000.6.7)

(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000113470

ボーラ化成工業株式会社

静岡県静岡市苏生町6番48号

(72)発明者 森 福義

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ボーラ横浜研究所内

(72)発明者 吉浜 桂一郎

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ボーラ横浜研究所内

(72)発明者 西原 紗子

東京都品川区西五反田2-2-3 ボーラ

化粧品本舗内

(74)代理人 100089244

弁理士 遠山 効 (外2名)

(54)【発明の名称】 肌トラブル出現注意時期の鑑別法及び鑑別のためのシート

(57)【要約】

【課題】 肌トラブルの出現がどの様なときに起こるかを適切に鑑別する手段を提供する。

【解決手段】 幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性を指標とし、肌トラブルの出現注意時期を鑑別する。鑑別には、幼少年期の大半を過ごした地域の気候のイメージ図とこれに対比させたコメントを記載した、背景が淡い寒色のシートを用いる。

1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性を指標とする、肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

【請求項2】 幼少年期が誕生より15歳までであることを特徴とする、請求項1に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

【請求項3】 幼少年期の大半を過ごした地域の代表特性値として、出身地を用いることを特徴とする、請求項1又は2に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

【請求項4】 幼少年期を過ごした地域の気候特性に、1) 雨や曇り、霧の多いところ及び/又は、2) 気温が低いところを含むことを特徴とする、請求項1~3何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

【請求項5】 肌トラブルの出現注意時期が1) 季節の変わり目及び/又は環境変化のあったときであることを特徴とする、請求項1~4何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

【請求項6】 請求項1~5何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法において、1) 雨や曇り、霧の多いところ及び/又は、2) 気温が低いところで幼少年時期を過ごした人の肌トラブルの出現注意時期を環境変化のあったときと鑑別することを特徴とする、請求項1~5何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

【請求項7】 請求項1~6何れか1項に記載の鑑別のためのシートであって、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性とその気候特性に対する肌トラブルの出現注意時期とが対応させて記載されており、該気候特性が、該気候特性のイメージを表現する象徴的な図形で記載してあることを特徴とする、肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシート。

【請求項8】 更に、幼少年期の大半を過ごした地域の属性の人に特徴的な、紫外線に対する抵抗力についてのコメントが記されていることを特徴とする、請求項7に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシート。

【請求項9】 請求項7又は8に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシートにおいて、背景が淡い寒色によって彩られ、肌トラブルの出現注意時期の記載が淡い暖色で彩られたコラム中に明度の低い色の文字で描かれていることを特徴とする、肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシート。

【請求項10】 淡い寒色が、淡い青及び淡い紫から選ばれる1種乃至は2種以上である請求項9に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシート。

【請求項11】 淡い暖色が淡い黄色及びオレンジから選ばれる1種乃至は2種以上である、請求項9又は10に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は化粧料の選択などに有用な、肌トラブルの出現注意時期の鑑別法及び該鑑別に有用な肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシートに関する。

【0002】

【従来の技術】化粧料などを使用する場合に於いて、注意しなければならない事柄の一つに、肌の状態と化粧料の種類とのマッチングが挙げられる。これは例えば、脂性の肌の人には脂性の肌の人用の化粧料を、或いは、乾性の肌の人には乾性の肌の人用の化粧料を使用すると言うような肌性に適切に対応した化粧料を使用することはもとより、トラブルのある時期には化粧料の使用を控えたり、低刺激性の化粧料を使用するような肌トラブルの有無に対応した化粧料の使用は更にトラブルを重篤にさせないために重要である。即ち、言い換えれば、化粧料を使用する上で、この様な肌トラブルの出現を的確に認知することは、化粧料を安全に使用する上で非常に大事なことであると言える。この様な肌トラブルは、その原因のものに殆ど多くの人に出現する可能性のあるものである為、肌トラブルの出現がどの様なときに起こるかについての情報が求められていたが、この様な肌トラブルがどの様なときに出現するかについては、全く知られていないかった。

【0003】従って、肌トラブルの出現注意時期の鑑別において、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性と指標することも全く知られていなかった。

【0004】加えて、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性とその気候特性に対する肌トラブルの出現注意時期とが対応させて記載されており、該気候特性が、該気候特性のイメージを表現する象徴的な図形で記載してあることを特徴とするシートがこの様な鑑別のために有用であることも全く知られていなかった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、この様な状況下為されたものであり、肌トラブルの出現がどの様なときに起こるかを適切に鑑別する手段を提供することを課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】この様な状況に鑑みて、本発明者らは、肌トラブルの出現がどの様なときに起こるかを適切に鑑別する手段を求めて鋭意研究努力を重ねた結果、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性と指標することにより、肌トラブルの出現注意時期の鑑別が適切に為し得ることを見いだした。更に検討を加えた結果、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性とその気候特性に対する肌トラブルの出現注意時期とが対応させて記載されており、該気候特性が、該気候特性のイメージを表現する象徴的な図形で記載してあることを特徴とするシートを用いることによりこの様な鑑別がより的確

3

に行えることを見いだし発明を完成させるに至った。即ち、本発明は下記に示す技術に関するものである。

(1) 幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性を指標とする、肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

(2) 幼少年期が誕生より15歳までであることを特徴とする、(1)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

(3) 幼少年期の大半を過ごした地域の代表特性値として、出身地を用いることを特徴とする、(1)又は(2)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

(4) 幼少年期を過ごした地域の気候特性に、1)雨や曇り、霧の多いとこ及び/又は、2)気温が低いところを含むことを特徴とする、(1)～(3)何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

(5) 肌トラブルの出現注意時期が1)季節の変わり目及び/又は環境変化のあったときであることを特徴とする、(1)～(4)何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

(6) (1)～(5)何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法において、1)雨や曇り、霧の多いとこ及び/又は、2)気温が低いところで幼少年時期を過ごした人の肌トラブルの出現注意時期を環境変化のあったときと鑑別することを特徴とする、(1)～

(5)何れか1項に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法。

(7) (1)～(6)何れか1項に記載の鑑別のためのシートであって、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性とその気候特性に対する肌トラブルの出現注意時期とが対応させて記載されており、該気候特性が、該気候特性のイメージを表現する象徴的な図形で記載していることを特徴とする、肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシート。

(8) 更に、幼少年期の大半を過ごした地域の属性の人に対する特徴的な、紫外線に対する抵抗力についてのコメントが記されていることを特徴とする、(7)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシート。

(9) (7)又は(8)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシートにおいて、背景が淡い寒色によって彩られ、肌トラブルの出現注意時期の記載が淡い暖色で彩られたコラム中に明度の低い色の文字で描かれていることを特徴とする、(7)又は(8)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシート。

(10) 淡い寒色が、淡い青及び淡い紫から選ばれる1種乃至は2種以上である(9)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシート。

(11) 淡い暖色が淡い黄色及びオレンジから選ばれる1種乃至は2種以上である、(9)又は(10)に記載の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシート。

以下、本発明について、実施の形態を中心に更に詳細に説明を加える。

4

【0007】(1)本発明の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法

本発明の肌トラブルの出現注意時期の鑑別法は、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性を指標とすることを特徴とする。ここで、幼少年期とは、生まれてから思春期までの期間を意味し、具体的には生まれてから15歳までの期間で代表できる。この期間に過ごした気候的環境から紫外線或いは温度などに対する抵抗力が傾向づけられ、それぞれの抵抗力の傾向の違いにより肌のトラブルの出方や出るタイミングなどが異なってくる。これは、この期間が人間の一生における環境適応性を決定づけるからだと考えられている。ここで、幼少年期の大半を過ごしたところは、出身地を代表特性値として用いても大きな違いはなく、アイデンティティの強さから、この様な出身地のイメージを用いることが的確な鑑別が出来るので有利である。この様な適応性を決定づける環境的因子としては、紫外線や温度等が挙げられる。具体的には、本発明においては地域的気候条件を、1)日射しが強いところ、2)雨や曇り霧の多いところ、3)雪が多いところ、4)気温が高いところ、5)気温が低いところ、6)都市部の6つに特徴付け、これに加えて1)～6)の何れにも特徴づけられない地域を選択肢として設けておくことが好ましい。これは、本発明者が、個対応のカウンセリング化粧料の販売時のプロファイルデータ(例数1342)の調査より、明らかにしたもので、肌トラブルを実感する時期と幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性をプロットしたものは、図1、図2に示した如くになり、肌トラブルを起こしやすい時期が、季節の変わり目と急激に環境が変化した時期の二つであり、この二つの内のどちらがより大きな要因となるかは、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性によって特徴づけられることが判る。中でも、肌トラブルに対して、気温が低いところと雨、曇り又は霧が多いところは環境の急激な変化が大きな因子となっていることは、特に特徴的であると言える。この様な傾向を利用して肌トラブルの出現注意時期を鑑別するが、本発明の鑑別法である。この様な鑑別により、肌トラブルの出現時期を予測することが出来、実際に肌トラブルの発生に素早く対応することが出来る。この様な対応により、肌トラブルなどの好ましくない事象を避け、更なる悪化を防ぐことが出来る。

【0008】(2)本発明の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシート

本発明の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ためのシートは肌トラブルの出現注意時期を鑑別するためのものであって、幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性の記載と肌トラブルの出現注意時期とが一対になって表示されたものである。即ち、本発明のシートの地域の気候特性を選び、これに相当する肌トラブルの出現注意時期を見れば一目で、肌トラブルの出現注意時期が鑑別でき

る。この時、地域の気候特性を、該気候特性のイメージを表現する象徴的な図形で記載しておくことが、特性理解を促進するので好ましい。この様な象徴的な図形としては、気候の表現に用いられているものであれば特段の限定無く使用することが出来、例えば、日射しが強いところで有れば、太陽のイメージ図や光線のイメージ図、雨、曇り又は霧の多いところでは、雲や雨粒のイメージ図、雪が多いところは、雪だるまやかまくらのイメージ図、気温が高いところはラクダ、ピラミッド、椰子或いはサボテンなどのイメージ図、気温が低いところは、ベンギン、シロクマなどのイメージ図、都市部であれば、ビルディングが林立したイメージ図などが好ましく例示できる。この様な象徴的な図形による表現を用いることにより、より的確に地域の気候特性の認識をすることが出来る。又、別添資料として、日本地図の上に気候特性分類を記載したものを添付しておくのも好適な方法である。更に、重要な要素である、温度や紫外線に対する抵抗性の特性も記載しておくことが好ましい。又、これ以外にも、地域の気候特性に由来して、次のような傾向が前記の個対応化粧料のプロファイルより得られている。これらのプロファイルも化粧と肌トラブルを考える上で重要な情報となるので、本発明の鑑別のためのシートに併記しておくことも有利である。これらの記載は1枚の頁に収めることも出来るし、数枚に分けて冊子の形態を取ることも出来る。

【0009】(日射しが強い気候条件の地域)強い紫外線を浴び続けたことによる、シミやシワの形成につながる、肌へのダメージの蓄積の可能性が高いこと。この場合における肌トラブル出現注意時期の鑑別結果は、「季節の変わり目」となる。

【0010】(雨、曇り、霧が多い気候条件の地域)強い紫外線を浴びていないため、すぐに赤くなりやすい傾向。シミ、シワなど肌の老化は進みにくい傾向。この場合における肌トラブル出現注意時期の鑑別結果は、「環境変化」となる。

【0011】(雪が多い気候条件の地域)雪面の紫外線反射は意外に多く、思った以上に紫外線の影響を受けている可能性があること。この場合における肌トラブル出現注意時期の鑑別結果は、「季節の変わり目」となる。

【0012】(気温が高い気候条件の地域)寒さに対する抵抗力が少ないので冬のお手入れは要注意。現在住んでいる場所が寒い地域である場合には、血行が悪くなりがちがあるのでマッサージや潤い対策が重要であること。この場合における肌トラブル出現注意時期の鑑別結果は、「季節の変わり目」となる。

【0013】(気温が低い気候条件の地域)厚さに対する抵抗力が低いので夏のお手入れは要注意。現在住んでいる場所が暑い地域である場合には、皮脂の分泌が増え、べたついてニキビなどが出来やすくなるので注意が必要。この場合における肌トラブル出現注意時期の鑑別

結果は、「環境変化」となる。

【0014】(都市部の地域)コンクリートの反射による紫外線や冷房の影響を受けやすい傾向。排ガスやホコリなどによるダメージの蓄積に注意。この場合における肌トラブル出現注意時期の鑑別結果は、「季節の変わり目」となる。

【0015】本発明の鑑別のためのシートは、淡い寒色を背景に用い、上記の記載事項を明度の低い色、好ましくは黒でコメントするのが好ましい。又、本発明の肌トラブルの出現注意時期の鑑別のためのシートの最も重要な記載事項である、肌トラブルの出現注意時期の記載については、淡い暖色で塗りつぶしたコラム中に、明度の低い色、好ましくは黒でコメントするのが好ましい。これは背景とのコントラストにおいて、前記コラム中の記載事項が印象深く記憶されるからである。この様な淡い寒色としては、淡い青及び淡い紫から選ばれる1種乃至は2種以上が好ましく例示でき、淡い暖色としては淡い黄色及びオレンジから選ばれる1種乃至は2種以上が好ましく例示できる。これらの色の組合せの内、特に好ましいものは、背景が淡い青色であり、コラムが淡い黄色で塗りつぶした形態である。

【0016】

【発明の実施の形態】【第1実施形態】

【実施例】以下に、実施例を挙げて本発明について更に詳細に説明を加えるが、本発明がかかる実施例にのみ限定を受けないことは言うまでもない。

【0017】<実施例1>個対応化粧料の使用前のプロファイル調査(1342名)より、出身地(15歳までのの大半を過ごした地域)の気候特性と肌トラブルが起こりやすいと感じる時期、光に対する反応が赤くなるタイプか黒くなるタイプかについての回答の集計を行ったところ、肌トラブルが起こりやすいと感じる時期と出身地の気候特性との関係は図1に示す如くになり、光に対する反応と出身地の気候特性との関係は図2に示す如くになった。これより、出身地の気候特性が肌トラブルの起こりやすい時期と極めて関連していることが判る。即ち、出身地の気候特性を知れば、肌トラブルが起こる可能性の高い、肌トラブルの出現注意時期を知ることが出来ることが判る。又、この様な現象は幼少年期に築き上げられた紫外線や熱などの電磁波の分布ムラに対する抵抗性の違いが原因であることが判る。

【0018】<実施例2>実施例1の知見をもとに、図3に示す、本発明の肌トラブルの出現注意時期鑑別のためのシートを作成した。背景色は白色で地域の気候特性のイメージ図は青、紫外線に対する抵抗力のコメントと肌トラブルの出現注意時期の表示は黒枠のコラムの中に黒字で記載した。これを用いて、肌トラブルの情報の伝達性を無作為に抽出したパネラー50名を用いて確かめた。即ち、50名のパネラーは25名ずつ2群に分け、50群は本発明の肌トラブルの出現注意時期の鑑別ため

のシートを提示しながら、出身地を問い合わせ、それによって鑑別された肌トラブルの出現注意時期と紫外線に対する注意事項を説明し、他の1群には、口頭のみで同じ説明を行った。3日後に別の人があの様な注意事項を与えたかを確認した。3日後の回答に於ける肌トラブルの*

*出現注意時期の正答率を表1に示す。これより、本発明の鑑別のためのシートの提示により、正答率が著しく向上していることが判る。

【0019】

【表1】

群	正答率(%)
シート提示群	36
シート非提示群	24

【0020】<実施例3>実施例2のシート提示群と同様に、パネラー1群20名を用いて、シートを見せて正答率の検討を行った。この時、背景色を淡い青、淡い紫、淡いオレンジ、淡い黄色とした。気候特性のイメージ図は青で、紫外線に対する抵抗力のコメントと肌トラブルの出現注意時期の表示は黒枠のコラムの中に黒字で※

※記載した。正答率を表2に示す。これより、背景は色があった方が好ましく、背景色は淡い寒色、取り分け淡い青色が好ましいことが判る。

【0021】

【表2】

背景色	正答率(%)
淡い青色	75
淡い紫色	60
淡い黄色	45
淡いオレンジ色	45

【0022】<実施例4>実施例2、3のシート提示群と同様に、パネラー1群20名を用いて、シートを見せて正答率の検討を行った。この時、背景色を淡い青とし、気候特性のイメージ図は青で、紫外線に対する抵抗力のコメントは白塗りのコラムに」黒字で、肌トラブルの出現注意時期の表示は淡い青、淡いオレンジ又は淡い★30

★黄色で塗りつぶしたのコラムの中に黒字で記載した。正答率を表3に示す。これより、コラムは淡い暖色系の色で塗りつぶすのが好ましく、淡い暖色系の色としては淡い黄色が好ましいことが判る。

【0023】

【表3】

コラムの塗りつぶしの色	正答率(%)
淡い青	75
淡いオレンジ	80
淡い黄色	90

【0024】<実施例5>背景色を淡い青とし、気候特性のイメージ図は青で、紫外線に対する抵抗力のコメントは白塗りのコラムに」黒字で、肌トラブルの出現注意時期の表示は淡い青、淡い黄色で塗りつぶしたのコラムの中に黒字で記載した本発明のシートを用いて、化粧水の使用テストを3月～4月にかけて行った。1群は20名とし、シート添付群とシートは渡さず口頭の説明のみの群との2群で行った。使用テスト期間は45日で、連☆

☆日1日2回使用で行った。トラブルが起こった場合或いは起こりそうな場合には直ちにやめるように指示した。

40 トラブルによる中断者数とトラブルが予測したため中断した人の人数を表4に示す。これより、本発明のシートの使用により、適切な使用が喚起され、トラブル発生を未然に防いでいることがわかる。

【0025】

【表4】

群	トラブル中断者	トラブル予測中断者
シート添付群	0	3
口頭説明群	4	0

【0026】〔第2実施形態〕次に、本発明の第2実施形態を図面を参照して説明する。第2実施形態で示す構成は例示であり、本発明は第2実施形態の構成に限定されない。第2実施形態として、ワールド・ワイド・ウェブ(WWW又はWeb)サイトを用い、肌のトラブル出現時期の鑑別方法の鑑別結果をWebサイトの利用者(ユーザー)に提供するシステムについて説明する。

【0027】〈システム構成〉図4は、肌トラブル出現時期の鑑別システムの構成例を示す図である。図1において、鑑別システムは、Webクライアント200のユーザーがWebクライアント200に搭載されたWebブラウザを使用し、インターネットINを介してWebサーバ100にアクセスすることによって、肌トラブル出現時期の鑑別結果を得るために使用される。このため、鑑別システムは、インターネットINに接続され、鑑別結果の提供者によって管理されるWebサーバ100と、インターネットINに接続され、鑑別結果の利用者(ユーザー)によって操作される不特定数の(少なくとも1つの)Webクライアント200とを備える。以下、図1に示した各構成要素について詳細に説明する。

【0028】〈〈Webサーバ100〉〉Webサーバ100は、インターネットINを介してWebクライアント200からのHTMLデータの要求を受けつけ、インターネットINを介して、Webクライアント200に対し上記要求に応じたWebページのHTMLデータを送信する。具体的には、Webサーバ100は、HTTPサーバ110、CGI実行部120、データベース(DB)サーバ130、WebページフォーマットDB140を有している。

【0029】HTTPサーバ110は、インターネットINに接続されているワークステーション、パソコンコンピュータ等において、HTTPDが動作することによって構成され、HTTPD実行部111及び記憶部112を有する。

【0030】HTTPD実行部111は、Webクライアント200から送信された各種の要求を受け付け、この要求に応じた処理を行う。例えば、HTTPD実行部111は、Webクライアント200からの要求がHTMLデータの要求であった場合には、この要求に対応するHTMLデータを記憶部112から読み出し、インターネットINを介してWebクライアント200に送信する。この例では、HTTPD実行部111は、肌分析のための質問に対する回答を入力するためのWebページ(「回答入力ページ」と称する)P1～P4を表示する*50

*ためのHTMLデータの要求を、Webクライアント200から受信する。図5～10は、回答入力ページP1～P4の表示例を示す図である。

10 【0031】図5～10に示すように、回答入力ページP1～P4は、肌分析を行うための9つの質問(Q1～Q9)と、各質問に対する回答欄とからなる。図5に示すように、質問Q1は、肌の被分析者(Webクライアント200のユーザー)の生まれた季節を得るために質問であり、ユーザーの星座を問う。回答入力ページP1は、質問Q1の回答欄として、星座の入力欄C1を有しており、入力欄C1の右側の「△」ボタンが押されるとアルダウンメニューM1が表示され、ユーザーがアルダウンメニューM1から星座を選択・入力できるようになっている(図6参照)。

【0032】また、図5に示すように、質問Q2は、ユーザーが幼少期の大半を過ごした地域を得るために質問であり、ユーザーの出身地を問う。回答入力ページP1は、質問Q2の回答欄として、出身地に該当する県名の入力欄C2を有しており、入力欄C2の右側の「△」ボタンが押されるとアルダウンメニューM2が表示され、ユーザーがアルダウンメニューM2から県名を選択・入力できるようになっている(図7参照)。

【0033】さらに、回答入力ページP1は、ユーザーの普段過ごしている環境を問う質問Q3、及びユーザーの生活環境・生活習慣を問う質問Q4、及びこれらの質問Q3、Q4の回答欄を有している(図5～7参照)。また、回答入力ページP2は、肌の脂っぽさを問う質問Q5、カサつきを問う質問Q6、及びこれらの質問Q5及びQ6の回答ボタンとして機能する複数の顔型のシンボルを有している(図8参照)。また、回答入力ページP3は、最近のユーザーの気分を問う質問Q7及びその回答ボタンとして機能する複数の顔型のシンボルを有している(図9参照)。さらに、回答入力ページP4は、ユーザーの肌の悩みを問う質問Q8、ユーザーの年齢を問う質問Q9、及びこれらの質問Q8及びQ9の回答欄を有している(図10参照)。

【0034】図4に戻って、HTTPD実行部111は、Webクライアント200からの要求がCGIの実行要求であった場合には、このCGI実行要求に含まれたデータ及び記憶部112に記憶されたこのCGIの実行に際して使用されるデータをCGI実行部120に与える。この例では、HTTPD実行部111は、回答入力ページP1～P4に示された質問Q1～Q9に対する回答データ及び回答に対するCGIの実行要求をWeb

11

クライアント200から受信する。HTTPD実行部111は、回答データ及びCGIの実行要求をWebクライアント200から受信した場合には、これらをCGI実行部120に与える。

【0035】さらに、HTTPD実行部111は、CGI実行部120からHTMLデータを受け取った場合には、このHTMLデータをインターネットINを介してWebクライアント200に送信する。この例では、CGI実行部120は、HTTPD実行部111から回答及びCGI実行要求を受け取った場合には、回答データに基づく肌の分析結果(分析結果は、お肌の傾向の鑑別結果、及び肌トラブル出現時期の鑑別結果を含む)を含むWebページ(「分析結果表示ページP5」と称する:図13)を表示するためのHTMLデータを生成し、HTTPD実行部111に与えるようになっている。HTTPD実行部111は、分析結果表示ページP5のHTMLデータをCGI実行部120から受信した場合には、このHTMLデータをWebクライアント200へ送信する。

【0036】記憶部112は、ランダムアクセスメモリやハードディスク等を用いて構成され、Webクライアント200へ送信するためのHTMLデータ、Webクライアント200からの要求に含まれていた各種のデータ、及びCGIの実行に際して使用されるデータ等を記憶する。記憶部112に対するデータの書込/読出処理は、HTTPD実行部111によって行われる。

【0037】CGI実行部120は、Perl、Visual Basic、Java等のプログラミング言語によって作成されたCGIプログラムが動作するワークステーション、パーソナルコンピュータ等により構成され、HTTPサーバ110、DBサーバ130、WebページフォーマットDB140にLAN、WAN等により接続される。CGI実行部120は、HTTPサーバ110から受信したデータに基づいて、DBサーバ130にアクセスすることにより、HTMLデータを生成し、生成したHTMLデータをHTTPサーバ110へ転送する。具体的には、CGI実行部120は、DB問い合わせ部121とWebページ生成部122とを有する。

【0038】DB問い合わせ部121は、HTTPサーバ110から受信した回答データを基にDBサーバ130にアクセスする。即ち、DB問い合わせ部121は、HTTPサーバ110から受信した回答データをDBサーバ130に転送し、DBサーバ130から回答データに対応する分析結果データを取得し、取得した分析結果データをWebページ生成部122に与える。

【0039】DBサーバ130は、ランダムアクセスメモリやハードディスクなどを用いて構成される少なくともデータベースを有するワークステーション、パーソナルコンピュータを用いて構成される。DBサーバ130

12

は、CGI実行部120からデータベースへの問い合わせを受信し、その問い合わせに対応するデータベースから該当するデータを読み出し、CGI実行部120に転送する。

【0040】この例では、DBサーバ130は、質問Q1～Q9に対する各回答に応じた肌分析のコメントデータ(鑑別結果データ)を記憶した複数のDBを有している。図4では、複数のDBとして、質問Q1の回答に対応する第1肌チェックDB131と、質問Q2の回答に対応する第2肌チェックDB132とが例示されている。図11は、第1肌チェックDB131のデータ構造を示す図である。図11に示すように、第1肌チェックDB131は、星座名(質問Q1の回答)と肌の傾向を示すコメント(鑑別結果データ)とが対応づけられたデータを記憶する。記憶されたコメントは、本願出願人の発明によるお肌の傾向の鑑別法を用いて用意されたものである。図12は、第2肌チェックDB132の有するデータ構造を示す図である。図12に示すように、第2肌チェックDB132は、出身地(質問Q2の回答)と肌の傾向及び肌トラブル出現注意時期を示すコメント(鑑別結果データ)を示すコメント及び肌トラブル出現時期を示すコメントとが対応づけられたデータを記憶する。記憶されたコメントは、本出願に係る幼少年期の大半を過ごした地域の気候特性を指標とする肌トラブルの出現注意時期の鑑別法を用いて用意されたものである。DBサーバ130は、回答データに基づいて、第1肌チェックDB131及び第2肌チェックDB132を含む複数のDBから回答データに対応するコメントデータを読み出し、CGI実行部120に転送する。転送されたコメントデータは、DB問い合わせ部121を通じてWebページ生成部122に与えられる。

【0041】Webページ生成部122は、DB問い合わせ部121から鑑別結果データを受信すると、分析結果表示ページP5のフォーマットデータに相当するHTMLデータを、WebページフォーマットDB140から読み出す。Webページ生成部122は、鑑別結果データ及びHTMLデータに基づいて、質問Q1～Q9の回答結果に応じた分析結果表示ページP5のHTMLデータを生成する。WebページフォーマットDB140から読み出されたHTMLデータ(フォーマット)は、DBサーバ130から得られた鑑別結果データを埋め込むことが可能となっている。Webページ生成部122は、HTMLデータ(フォーマット)の所定の位置に鑑別結果データを書き込むことによって、分析結果ページP5のHTMLデータを生成する。生成されたデータは、HTTPサーバ110へ転送され、HTTPサーバ110を経由してWebクライアント200へ転送される。

【0042】図13は、Webページ作成部122によって作成される分析結果表示ページP5のHTMLデータの例を示す図である。図13に示すように、分析結果

13

表示ページP5は、質問Q1～Q3の回答に対応する分析結果1と、質問Q4～Q9の回答に対応する分析結果2とが項分けして表示される。分析結果1として、星座、出身地、普段過ごしている環境に対する肌の傾向についてのコメント文が表示される。図13に示す例では、星座「山羊座」に対する肌の傾向についてのコメントとして「寒い季節に生まれたあなたは皮脂分泌が少なく、感想による肌のくすみがあらわれやすいという傾向があります」が表示され、出身地「都市部」に対する肌の傾向(肌トラブルの出現注意時期を含む)についてのコメントとして「15歳までに都市部で過ごしていることで、お肌はコンクリートの反射によるUVや冷暖房による温度湿度の影響を受けやすいようです。排気ガス・ほこりなどによりダメージが蓄積していることも、変化する季節に合わせてお手入れを極め細かく変えて行くことが大切です」が表示されている。なお、Webページ作成部122は、Webブラウザに、背景色を淡い青としたコラムの中に、黒又は黒に近い紺色の文字でコメントが表示されるような分析結果表示ページP5のHTMLデータを生成する。なお、出身地に対応する肌トラブルの出現注意時期を明示するコメント(図3に示したような「肌のトラブルに注意するのはこんな時：季節の変わり目」)を分析結果表示ページP5に掲載するようにしても良い。また、図14に示すように、Webブラウザに表示された画面をプリンタなどの印刷装置によって出力した際に、定型紙サイズ(例えばA4サイズ)に印刷されるようにHTMLデータを生成しても良い。

【0043】<<Webクライアント200>>Webクライアント200は、パーソナルコンピュータ、ワークステーション、モバイルコンピュータ、PDA、携帯電話機、PHS等のインターネット端末として機能するコンピュータを適用することができる。また、Webクライアント200のインターネットINへの接続形態は、ダイヤルアップIP接続、専用線接続等の既存の接続形態のいずれをも適用することができる。Webクライアント200は、インターネットINを介してWebサーバ100とデータを送受信することにより、Webサーバ100から受信したHTMLデータをWebブラウザによって出力する。具体的には、入力部201、出力部202、Webブラウザ実行部203を有する。入力部201は、ボタン、キーボード、ポインティングデバイス(マウス、トラックボール、ジョイスティック等)等を用いて構成される。出力部202はディスプレイを用いて構成される。Webブラウザ実行部203は、入力部201により入力されたデータをWebサーバ100に送信し、Webサーバ100より受信したデータを出力部202に出力する。

【0044】本実施形態におけるシステムは、1台若しくは複数台のWebクライアント200がインターネットINに接続されていても良い。また、本実施形態にお

14

けるシステムのWebサーバ100における各部は、1台または複数台のワークステーション、パーソナルコンピュータなどによって実現されてもよい。また、本実施形態におけるシステムのWebサーバ100は、1台のワークステーション、パーソナルコンピュータなどによって実現されてもよい。

【0045】<本システムの動作例>次に、本システムの動作例を図15に示すシーケンス図を用いて説明する。まず、Webクライアント200は、Webサーバ100に、肌トラブル出現注意時期の鑑別を行うWeb

10 サイトに対応するURLを含んだデータを送信する(ステップS1)。Webクライアント200からURLを含んだデータを受信したWebサーバ100は(ステップS2)、受信したデータに含まれるURLに対応するHTMLデータ(回答入力ページP1～P4)をWebクライアント200に送信する(ステップS3)。

【0046】Webサーバ100よりHTMLデータを受信したWebクライアント200は(ステップS4)、受信したHTMLデータをWebブラウザ実行部

20 で画像に解析し、出力部202で表示する(ステップS5)。表示された画面(回答入力ページP1～P4)に含まれる質問Q1～Q9に対し、ユーザは入力部201によって回答を入力すると、Webブラウザ実行部203によりWebサーバ100に対して入力された回答データが送信される(ステップS6)。

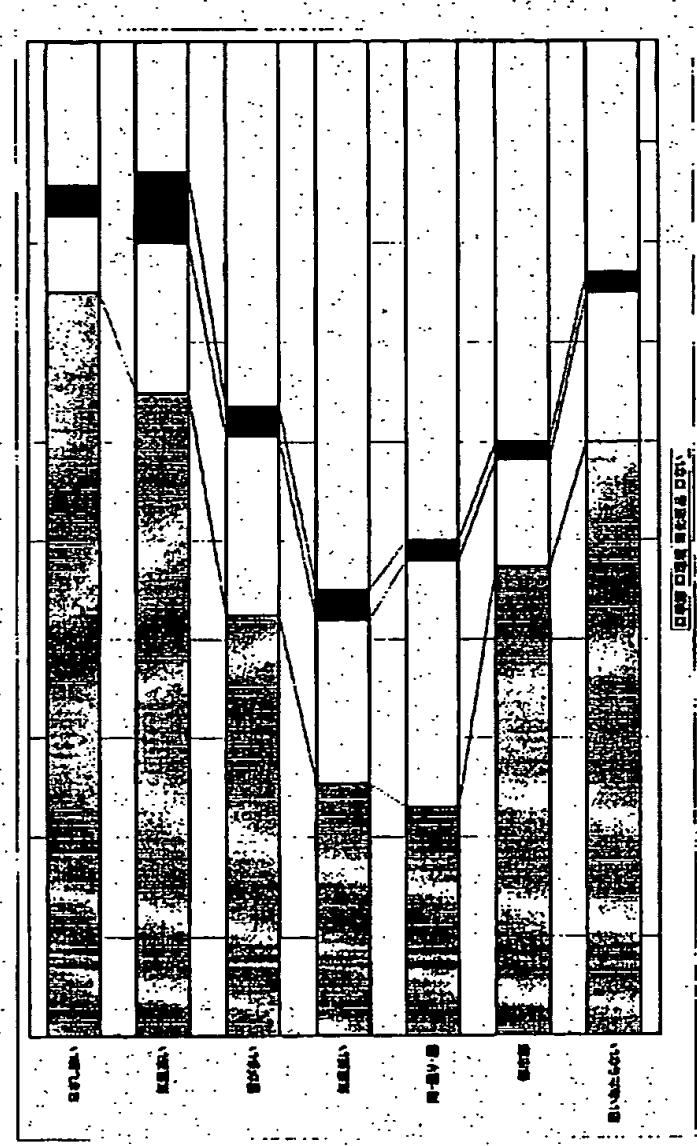
【0047】Webサーバ100は、Webクライアント200から質問の回答データを受信すると(ステップS7)、その回答データをHTTPサーバ110を介してCGI実行部120に転送する。CGI実行部120がHTTPサーバ110から回答データを受信すると、DB問い合わせ部121が、当該回答データに対応する鑑別結果データをDBサーバ130から取得する(ステップS8)。

【0048】DB問い合わせ部121は、二つの回答に応じた鑑別結果データを受け取った後、両鑑別結果データをWebページ作成部122へ渡す。Webページ作成部122は、WebページフォーマットDB140から、肌トラブル出現時期の鑑別の結果を示すためのHTMLデータのフォーマットを読み出し、回答に応じた鑑

40 別結果データをHTMLデータのフォーマットに埋め込み、HTMLデータ(分析結果表示ページP5)を生成する(ステップS9)。生成されたHTMLデータは、HTTPサーバ110に渡される。

【0049】HTTPサーバ110は、CGI実行部120より、肌トラブル出現時期の鑑別の結果を示すHTMLデータを受け取り、受け取ったHTMLデータをクライアント200に対して送信する(ステップS10)。クライアント200のWebブラウザ実行部203は、Webサーバ100よりHTMLデータを受信し50(ステップS11)、出力部202が分析結果ページP

【図1】



【図3】

Q2 あなたの出身地はどこですか？

15歳まで1番長く住んでいたところ



①
日差しが
強いところ

紫外線に対する抵抗力は高め。
強いUVを浴び続けたことにより、シミ・シワへと
つながる肌へのダメージが蓄積していることが
多いようです。



②
雨や曇り、雲
の多いところ

紫外線に対する抵抗力は低め。
強いUVを浴びていないため、すぐに赤くなり
やすい肌。たぶし・シミ・シワなどの肌の老化は
進みにくい傾向です。



③
雲
が多いところ

紫外線に対する抵抗力は低め。
肌のUV皮膚は通常以上多く、思った以上
にUVの影響を受けていることがあります。



④
気温
が高いところ

紫外線に対する抵抗力は高め。
さらに…
肌に対する抵抗力を高めるので年々手入れに
気を抜き、また、育ったところよりも肌の老化に
悩んでいる場合は、進行が遅くなるので
マッサージやうるおい効果を高めずに。



⑤
気温
が低いところ

紫外線に対する抵抗力は低め。
さらに…
肌に対する抵抗力を高めるので夏はお手入れに
気を抜き、また、育ったところよりも肌の老化に
悩んでいる場合は、肌の動きよりも皮脂の分泌
が増え、ベタついてニキビができることがあります。



⑥
都市部

紫外線に対する抵抗力は
高い人と低い人が混在する。
コンクリートの更地によるUVや冷暖房による温度
変化の変化の影響を受けやすいところでは土上・廃棄
ガス・ほりなどによりダメージが蓄積していることも。



⑦
特に思い
あたらない

紫外線に対する抵抗力は
ほぼ平均的。
光や温度の強い影響を受けていないため、
特に肌へのダメージが蓄積している状態
ではないようです。

思春期までに過ごした環境から
「紫外線」や「暑さ・寒さ」に
対する抵抗力がわかります。

肌のトラブルに
対する敏感度
季節の変わり目

肌のトラブルに
対する敏感度
環境変化

肌のトラブルに
対する敏感度
季節の変わり目

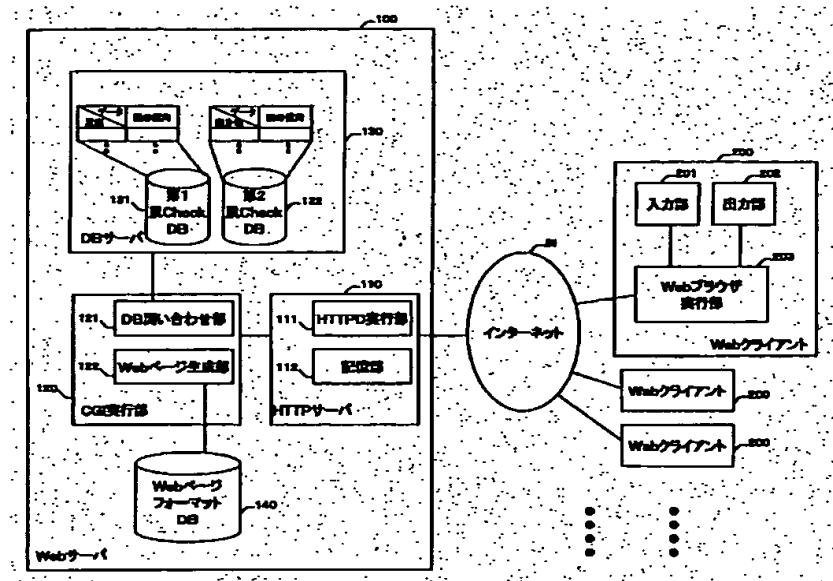
肌のトラブルに
対する敏感度
季節の変わり目

肌のトラブルに
対する敏感度
環境変化

肌のトラブルに
対する敏感度
季節の変わり目

肌のトラブルに
対する敏感度
季節の変わり目

[四]



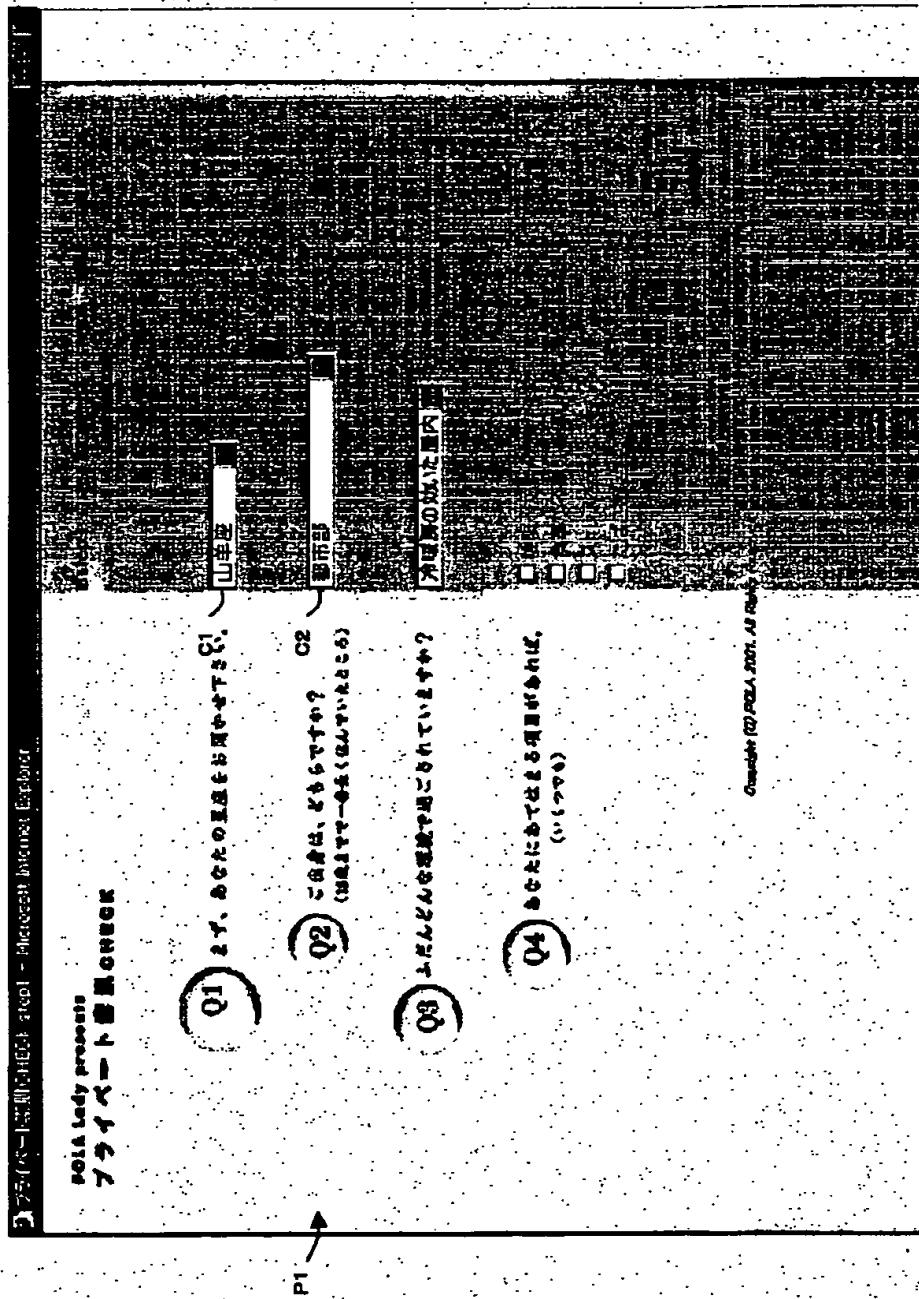
【图11】

データ 品種	肌の傾向
山羊皮	皮脂分泌が少なく、虚型による肌のくすみがあれ オカやすい

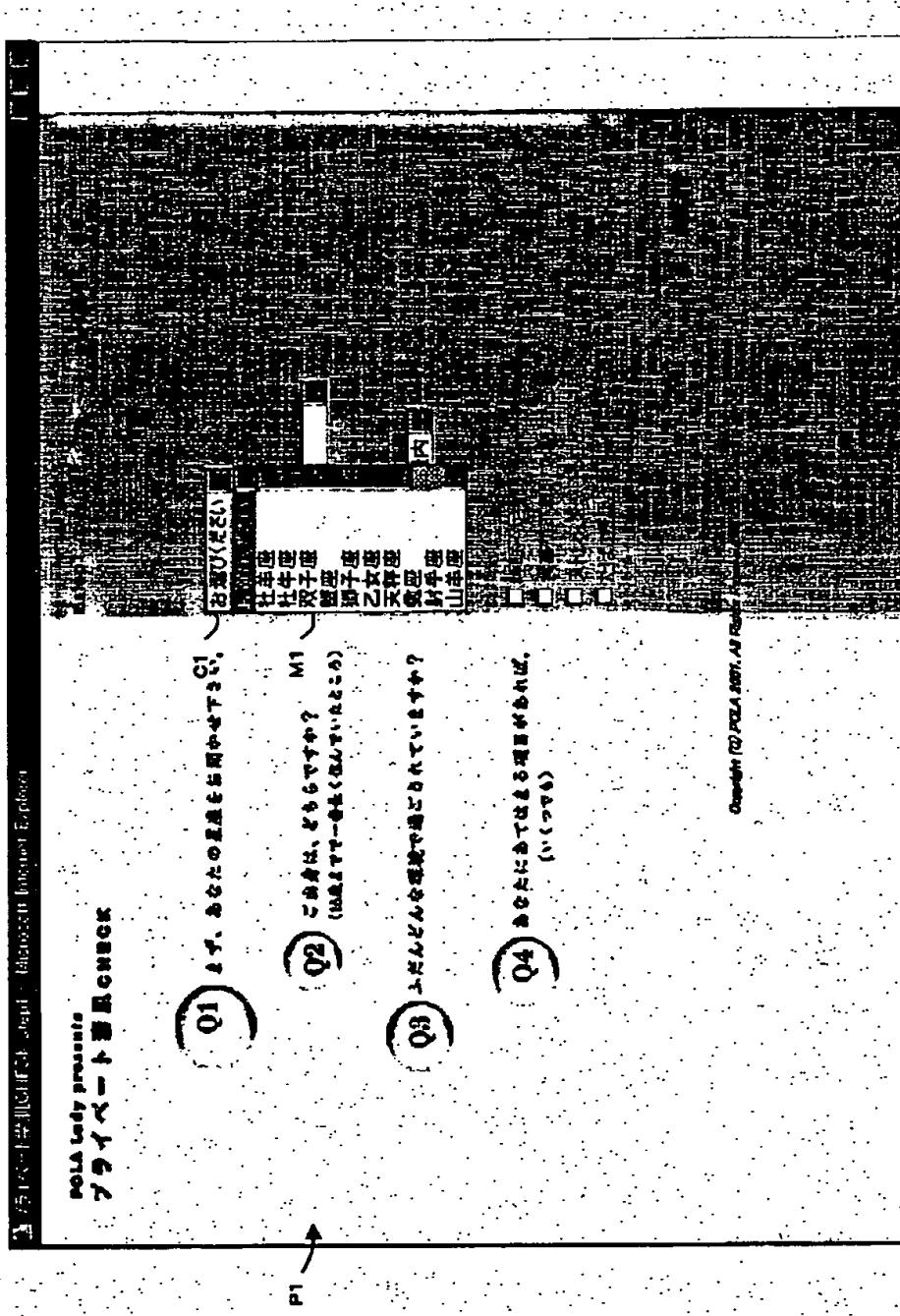
【图12】

出身地	データ	風の傾向
都市部	132	お題はコンクリートの反射によるUVや冷暖房による温度湿度の変化の影響を受けやすい。

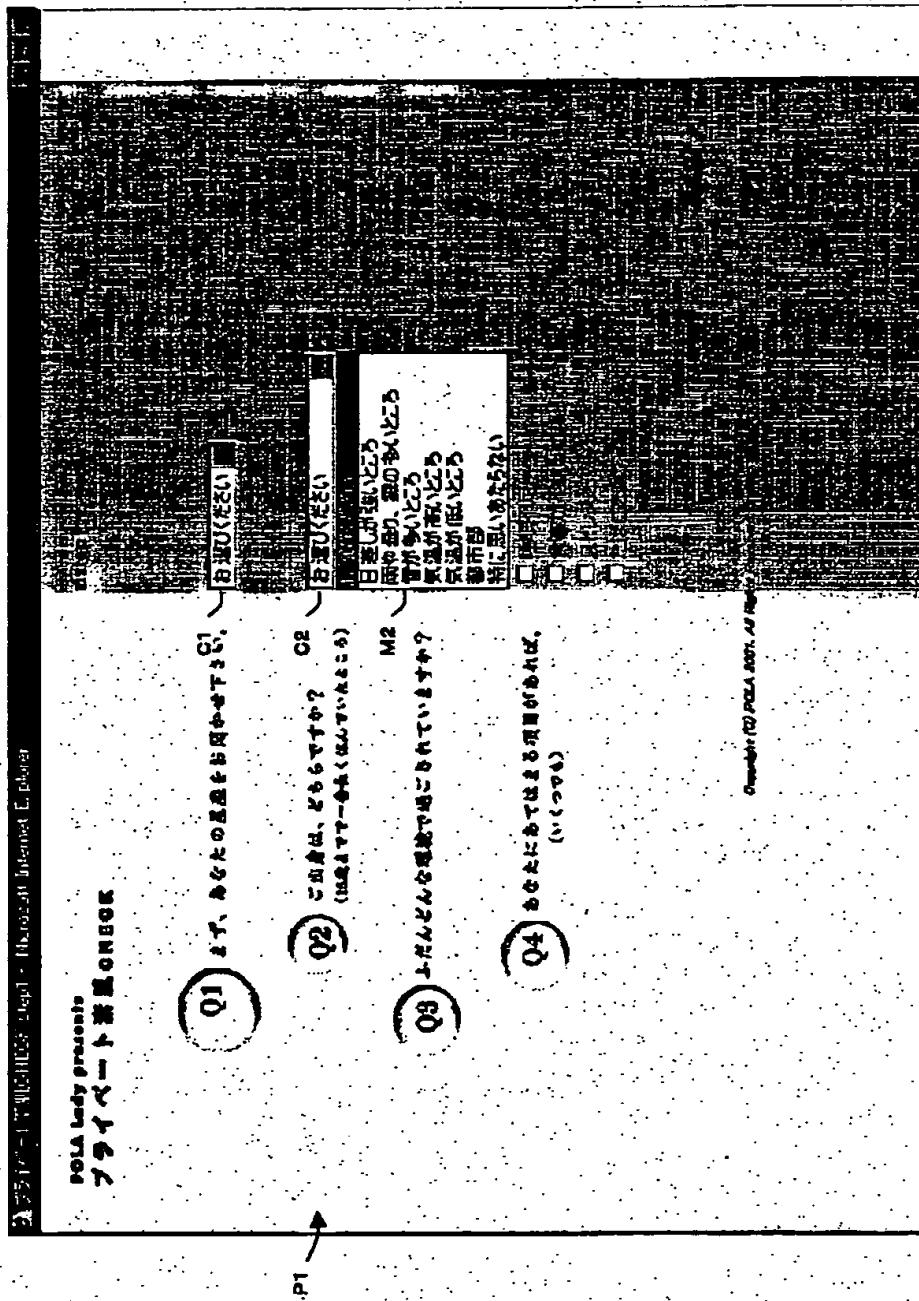
【図5】



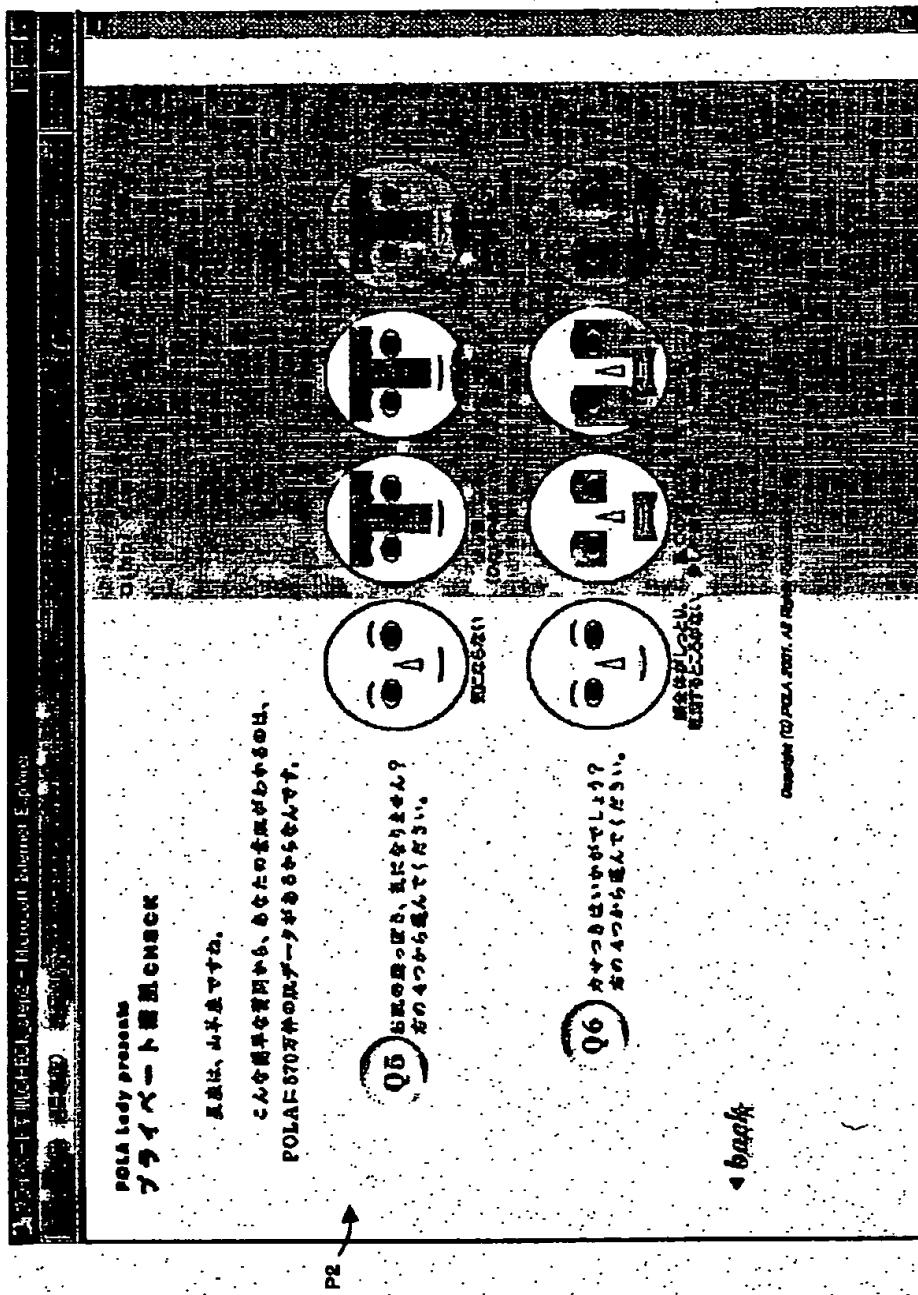
【図6】



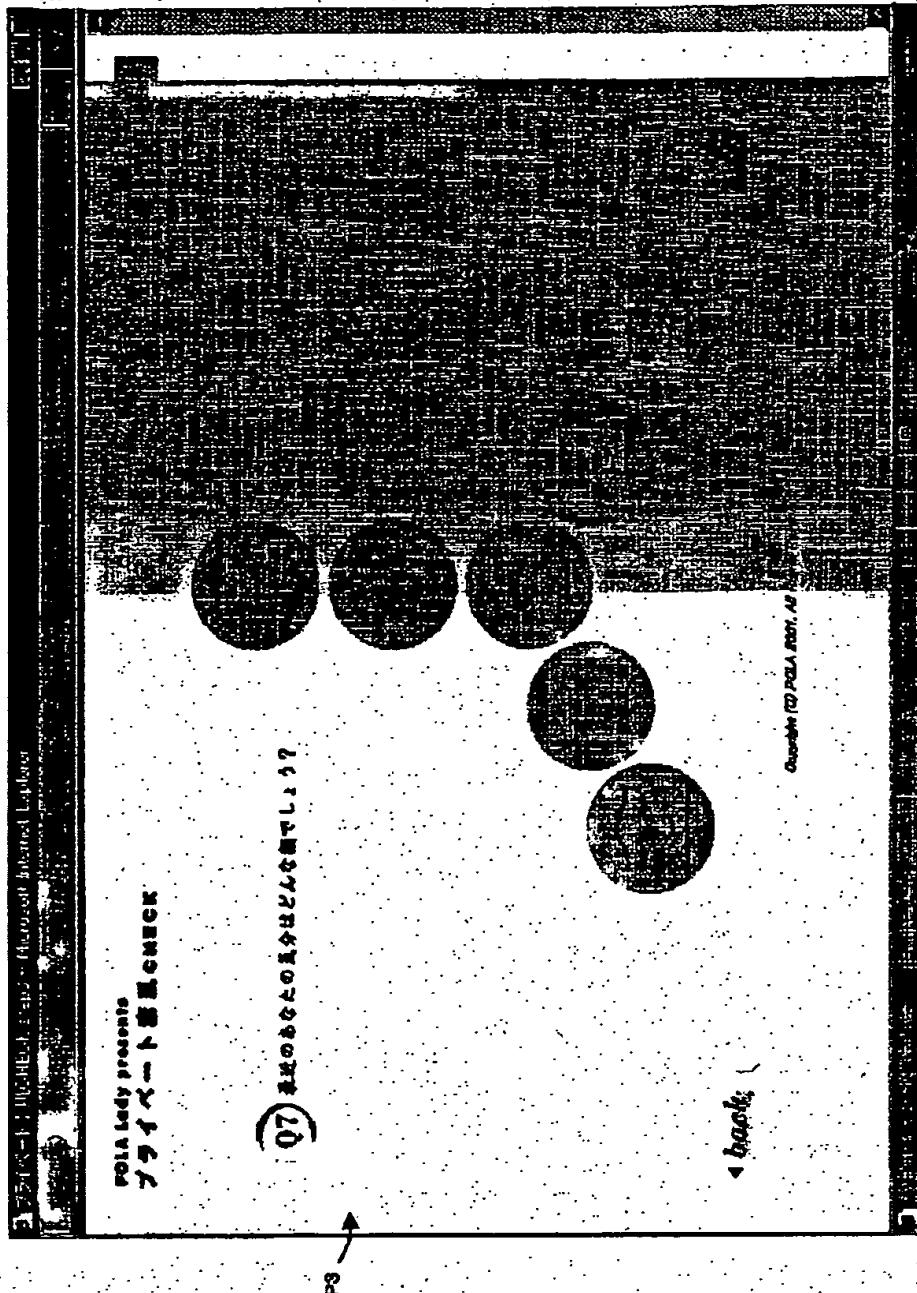
【図7】



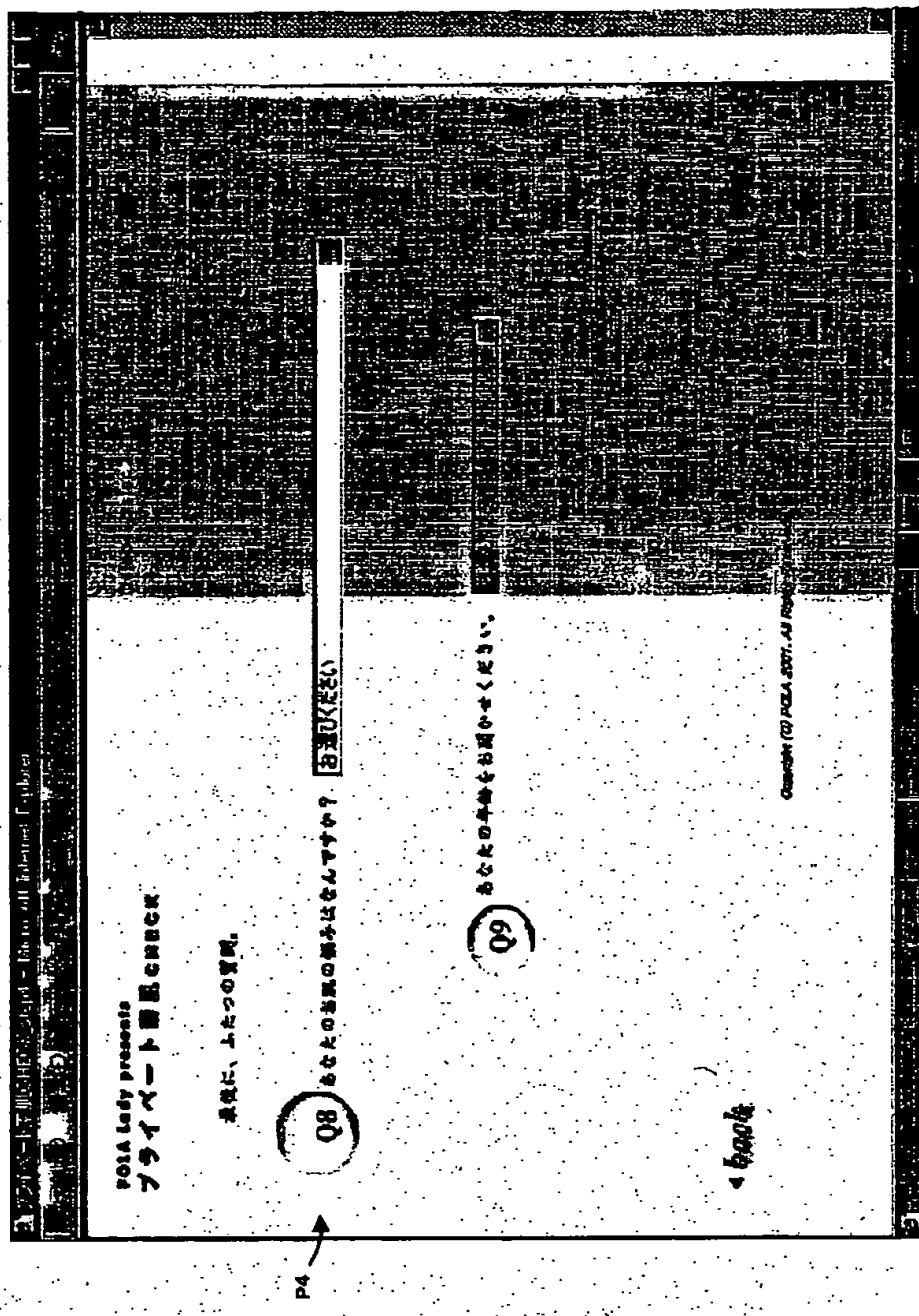
〔図8〕



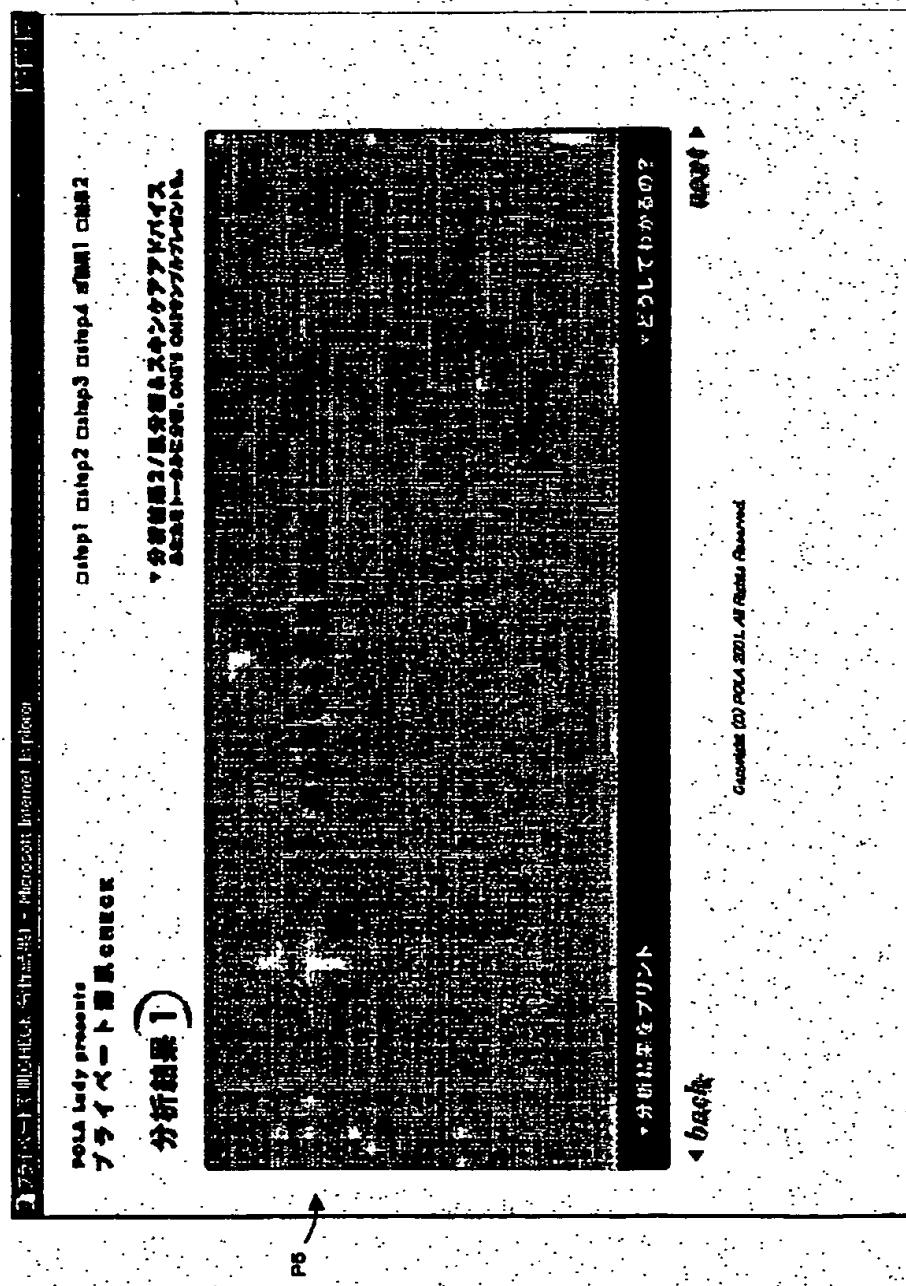
【図9】



【図10】



【図13】



【図14】

POLA Lady presents
プライベート肌風CHECK

2001年5月29日

分析結果 1

01-55、山羊皮、都市部、介護服のない屋内を避けた
あなたのお肌の傾向は、
肌:季節に生まれたあなたは皮脂分泌が少なく、乾燥による肌のぐすみがあれわれやすいという傾向があります。
15度までに都市部で過ごしていることで、お肌はコンクリートの反射によるUVや市振度による温度湿度の変化の影響を受けやすいようです。
抜き気分・ほこりなどによりダメージが蓄積していることも。
また現在、冷暖房のない屋内で過ごすことの多いあなたの肌は外気に近い温度で、負担は少ないようですが、夏は高温・多湿により、汚れやすく、べたつきがち。
冬は低温・乾燥で肌の内部の潤きが皮膚に保てないことも。
変化する季節に合わせてお手入れをきめ細かく変えていくことが大切です。

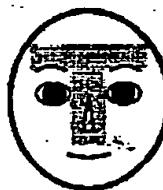
印刷するには<ファイルメニュー>から
<印刷(プリント)>を選択してください。

分析結果 2

あなたの肌は【普通肌】水分が多く皮脂が少ない肌
うるおいがある肌ですが皮脂が少ない季節や環境の影響を受けやすいこともあります。

肌分析 & スキンケアアドバイス
あなたの肌性は、【普通肌】水分が多く皮脂が少ない肌
うるおいがある肌ですが皮脂が少ない季節や環境の影響を受けやすいこともあります。
お手入れのポイントは
●セラミド・セラミック・キメ細かく合わせて
●洗顔は肌のうるおいを保つしとりタイプで
●肌の状態にあわせたパックアド部分ケアを
普通肌、脂性肌など自分の肌性をご存知の方が多いですが、もっとお肌をよく見つめると実は一貫で普通肌といってもテカテカソーン・カサカサソーンはひとりひとり違うもの。
肌性だけでなく、どの部分がどのような状態なのかを知った上でお手入れすることが大切です。

あなたの部分差は、



- 資:カサカサソーン
- み:テカテカソーン

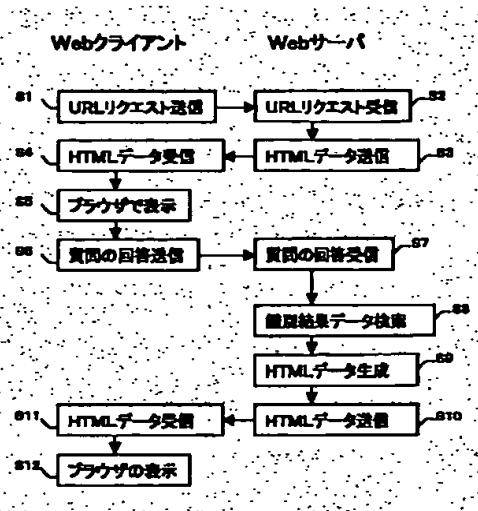
アドバイス

●洗顔は脂っぽいところから始めましょう。すすぎはぬるま湯で。
●部分的に皮脂が気になる場合はパックのお手入れも効果的。
肌の状態をみながら乾燥しがちなところを中心にクリーム等保湿の高い化粧品を少量お使いください。

スキンケアアドバイス

- 洗顔はきちんと行い、余分な皮脂やメークの汚れをしっかりと落としましょう。
- マッサージやパックでも穴の奥にたまりがちな黒髪の汚れを取り除きましょう。
- 余分な油分を与えないさっぱりタイプの化粧品でお手入れを。
- 目や口のまわりは皮脂分泌が少なく、意外に乾燥しています。積極的な保湿ケアを。
- 生活アドバイス
- 皮脂分泌を抑制するビタミンE(牛乳、レバー、納豆など)をとりましょう。摂取をとりすぎると、皮脂分泌を調整するビタミンB2が減少してしまい、肌は脂っぽくなります。

【図15】



【手続補正書】

【提出日】平成13年9月26日(2001.9.2)

6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正内容】

【発明の名称】肌トラブル出現注意時期の鑑別法及び
鑑別のためのシート

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正内容】

【0032】また、図5に示すように、質問Q2は、ユーザーが幼少期の大半を過ごした地域を得るために質問であり、ユーザーの出身地を問う。回答入力ページP1は、質問Q2の回答欄として、出身地の入力欄C2を有しており、入力欄C2の右側の「▽」ボタンが押されるとプルダウンメニューM2が表示され、ユーザーがプルダウンメニューM2から出身地を選択・入力できるようになっている(図7参照)。